スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

香川県 坂出市

自 治 体 名 ： 香川県 坂出市
担 当 課 名 ： 教育委員会　学校教育課
電 話 番 号 ： ０８７７-４４-５０２４

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	92 ㎢
人口	47,911 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	1,038 人
部活動数	47 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【市の現状と課題】

市の人口減少とともに、中学生年齢相当の生徒数も減少傾向にある（【図１】）。それに伴い、運動部の団体競技では、部員不足のため、市内外の学校と合同チームを組んだり、単独校チーム編成であっても、人数に余裕がなかったりする。生徒の身体づくりや生涯スポーツの観点から考えると、適切な人数で活動させたいという願いが関係者には強い。

また、学校では、教員数が減少し、教員顧問の配置が難しい現状がある。

そのような状況をふまえ、坂出市部活動改革推進協議会を令和５年度に設置し、令和６年度において、初めて実証事業および部活動指導員配置に取り組んだところである。

地域移行を進めるうえでは、総合スポーツ施設等はないため、受け皿づくりから考え、理解をいただいたスポーツ少年団（サッカーボール競技）の協力を得て実証事業を実施した。

初年度のため、必要な体制づくりの比重が大きく、活動自体は期間限定となった。

【地域クラブへの移行を考える際の配慮点】

・ねらいの共通理解

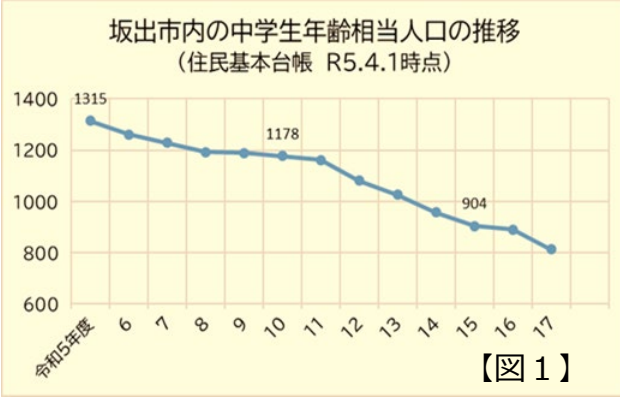
ねらい：『部員数の増減や顧問の専門性、部活動の有無にかかわらず、生徒が安心して安定的に練習できる体制づくり』『学校段階を問わず、競技を継続できる環境づくり』

・持続可能性

ライセンス保持者である指導者が複数いて、継続的に対応できること

・安全性

指導者が複数いることによって、保護者の信頼や、より多くの目でこどもを見守ること、ハラスメントを予防することにつなげる。



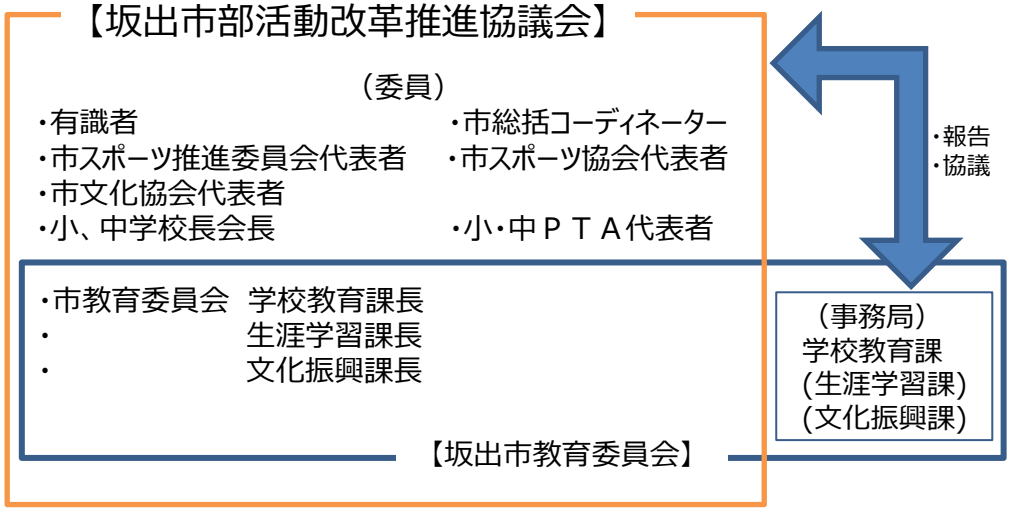
【図１】

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校のニーズの把握、対応

・学校と地域クラブ、スポーツ関係諸団体との調整、学校間調整、施設関係、文化部移行に関する調整等

・実証事業関係購入支払い等に関する事務

◉首長部局

・財務課

年間の事業スケジュール

令和６年　１月	対象競技のスポーツ少年団と協議、関係部活動顧問の意見収集
令和６年　４月	実証事業の各種体制整備
令和６年　６月	保護者向け実証事業説明会
令和６年　７月	傷害・賠償保険加入
令和６年　７月	市教育委員会主催スポーツ指導者研修実施
令和６年　８月	実証事業開始
令和６年　９月	第１回坂出市部活動改革推進協議会
令和６年１２月	実証事業終了、アンケート・聞き取り実施
令和７年　１月	第2回坂出市部活動改革推進協議会
令和７年　２月	保護者向け実証事業報告会

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）休日・期間限定		1 クラブ（3 部活動）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	16 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ＳＦＣ坂出Ｕ１５	・行政部局 ・スポーツ少年団	（新）サッカー競技	８月～１２月の８回	11:00～13:00	１年１５人 ２年１８人	８月～１２月（８回）	総社グラウンド	16 人	２人	徴収しない	例） 中体連：部活動 その他：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

2.実証内容と成果③

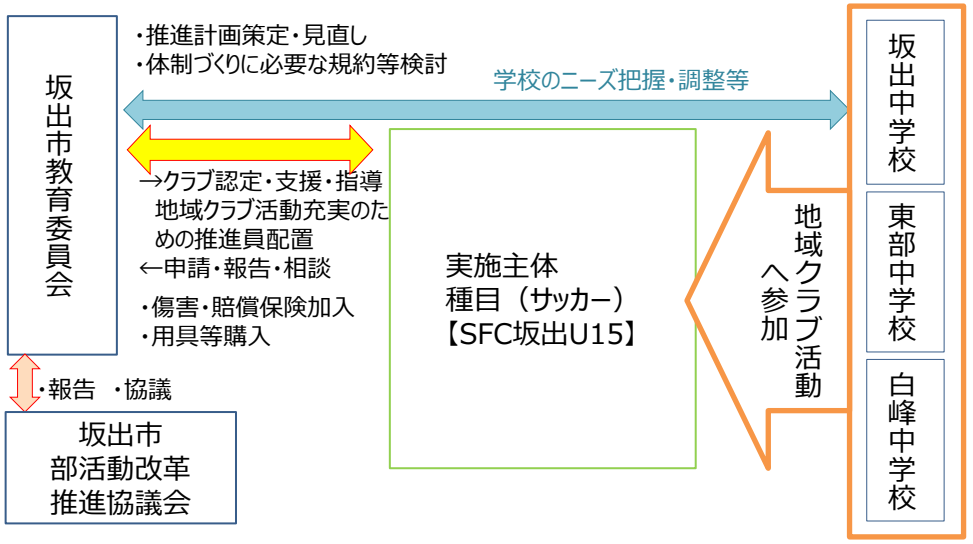
スポーツ庁

主な取組例

●SFC坂出U15　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	学校教育課、ＳＦＣ坂出Ｕ15
期間と日数	サッカー：８月24日 ～12月21日 （８回）
指導者の主な属性	スポーツ少年団スタッフ（指導者）
活動場所	総社グラウンド
主な移動手段	自転車、保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	徴収しない
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●市部活動総括コーディネーター　1名

役割：部活動地域移行についての関係諸団体との調整、総括等を行う

●実施主体代表者1名、チーム責任者１名

役割：指導、指導者配置、練習計画作成、施設の開閉、活動準備等を行う

●地域クラブ活動充実のための推進員　１名

役割：クラブと学校間、あるいは学校間の調整、活動記録作成、物資搬入、生徒対応等を行う

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

(1) 関係者との連絡調整・指導助言等の体制整備

①『地域クラブ充実のための推進員』の配置
（坂出市地域クラブ活動に関する認定要綱に規定）

②地域移行の初期段階においては、市教育委員会が必要な事務手続きや予算執行を行う。

(2) 実施主体の整備

（坂出市部活動改革推進計画に基づき①～③制定）

①『坂出市部活動改革における地域移行の考え方』

②『坂出市部活動改革における新たな地域クラブ活動実証事業ガイドライン』

③『坂出市地域クラブ活動に関する認定要綱』

④教員の兼職・兼業届

取組および成果

(1) 関係者との連絡調整・指導助言等の体制整備

実施主体の課題として、『学校部活動との連携の難しさ』がある。それを解消するため、学校間、学校と地域クラブ間の連携を目的として『地域クラブ活動充実のための推進員』を配置した。推進員は、活動場所にいる指導者でもあるため、活動状況を把握しており、学校間、学校と地域クラブ間の意思疎通や意見をとりまとめることができ、学校とクラブをつなぐ要の存在であった。

(2) 体制整備について

令和５年度に設置された坂出市部活動改革推進協議会において承認された『坂出市部活動改革推進計画』に従い、計画で示された３つの地域移行パターンのうち、『地域クラブ型』を実証事業を活用して実施するため、本年度①～③を整備した。④については、本年度３名の教員が該当した。

(3) 参加生徒33名対象の事後アンケート(回収率100%)結果

『参加してよかった』が100%であり、充実感を得ている。

地域クラブ活動充実のための推進員の具体的な動きの実績

（全般）地域クラブのスタッフの指導を尊重し、練習体制が整えられた。

・クラブ代表者との協議、活動計画の作成、変更の調整、連絡
・生徒対応（生徒の状況を把握、対応・指導）
・改善点や課題を整理、対策を提案
・記録、危機管理、消耗品購入　他

今後の課題と対応方針

学校関係者ではない方々にとっては、中学校体育連盟主催の大会に出場するための手続きや、当日の協力要請、必要な人員、会合の種類等、わからない部分が多い。今後、ひとつのクラブチームとして大会に出場することを考えると、具体的な情報提供が不可欠である。令和７年度も推進員を配置し、スムーズな活動につなげる。

2.実証内容と成果⑤

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

(1)救急救命入門　（心肺蘇生・AED・熱中症）

(2)中学生の指導にあたって必要なこと（コンプライアンス・安全管理・リスクマネジメント含む）

指導中の不慮の事故に備えて、活動開始時から終了時までの観察をしっかり行うことはもちろん、活動前の生徒の状況（起床時刻、睡眠時間、食事など）の把握に努めなければならない。特に中学生年代の特性として、自身の体調を丁寧に説明できなかったり、トレーニングに参加したいがために不調を隠したりすることもあるため、指導者が十分な声かけや観察を行い、身体の状況を把握する必要がある。





指導者研修の参加実績

・開催日：　７月27日
・開催回数：　１ 回
・参加人数：　14人（うち部活動指導員2名、事務局４名含む）

受講者の声

○　心肺蘇生やAED操作の研修については、地域クラブに所属する中学生に対しても、年間の指導計画に位置付けて実施すべき事柄であると考える。このことは、単に緊急時対応の知識の習得に止まらず、中学生という発達段階において必要とされる判断力・行動力について考えさせたり、危機管理意識を高めさせたりするための機会ともなる。また、ややもすると指導者や保護者など大人に依存しがちな面や指示待ちな姿勢から脱却し、自立心を養うことにもつながる。

○　中学生が自分の身体の状況について客観的な視点を持って把握したり、けがや疾病の予防に努めようとしたりすることは重要である。特に夏場では、熱中症の予防のために、自己管理を習慣付けることも身に付けさせたい。地域クラブ活動を実施するにあたっては、On the pitchだけでなく、日常生活や学校生活などのOff the pitchにおいても、同様な態度・行動がとれる自立した選手の育成に努めたい。

今後の課題と対応方針

心肺蘇生実技研修とともに、市としての確認事項があるため、令和７年度も市教委主催の指導者研修会（対面）を実施する予定である。また、動画のコンテンツ視聴等を組み合わせたり、市と包括連携協定を結ぶ企業と可能な範囲で相互協力したりして、研修を深化させる。

2.実証内容と成果⑥

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

■市教育委員会が事務局として市サッカー協会、クラブ（実施主体）、部活動（学校）との協力体制を構築した。また、事務局も活動場所に行き、実証事業の進捗状況を把握し、支援を行った。

『地域クラブ活動充実のための推進員』を配置し、協力を依頼したことにより、学校間、学校とクラブ間のよりスムーズな連携が図られた。

■実証事業を初めて実施するにあたり、要綱や様式を整備し手続きを定め、運用を通して修正・改善点が明らかになった。また、兼職・兼業の申請も含めて、今後、部活動改革を進めるうえでの、ひとつのモデルケースとすることができた。

■U12チームとのゲームは、中学１年生のモチベーションアップにつながった。

■参加生徒は充実感・満足感を得ており、教員もスタッフの指導に感謝している。

■実証事業後の保護者会においては、本年度のような活動を年間通して継続すること、いずれは１チームとして編成していく方向で進むことについて確認した。

●成果の評価

■実施主体、学校、市教育委員会の三者には、『年齢にかかわらず（対象の）スポーツができる環境を守りたい』という思いが共通しており、それを目的として共通理解することが事業の成果につながっている。

■参加生徒の事後アンケート結果からは、実証事業への充実感や満足感がうかがえ、次年度も参加したいという意欲や、集団競技に適した人数でスポーツを楽しみたい、技術を向上させたいという思いが汲み取れる。

■実施主体からは、大きく次の２点が示された。

・推進員配置は大変効果的であった。継続配置をお願いする。

・トレーニングを計画するには、年間継続（休日）することが必要なため、回数の拡大を希望する。

■教員は、自分が急用で行けなくなっても生徒は地域クラブ員として活動できるありがたさを、事業を通して実感した。土日の指導については指導者が融通を利かせて対応していくことにより、ワークライフバランスにつながる。

■地域クラブ活動の認定要綱等により、学校部活動と地域クラブ活動の指導方針が大きくずれることなく、また、身体的・経験的・経済的にさまざまな状況下の生徒を対象とする学校部活動の意義を継承し、発展させていくことが道筋としてできつつある。

●今後に向けて

■学校管理下ではない地域クラブ活動については、新入生保護者にも説明を行う。
■合意形成が整ったところから実証事業を活用し、対象競技数を増やしていく。
■違うパターンの地域移行について、合意形成ができたら実証事業を適用してみる。

2.実証内容と成果⑦

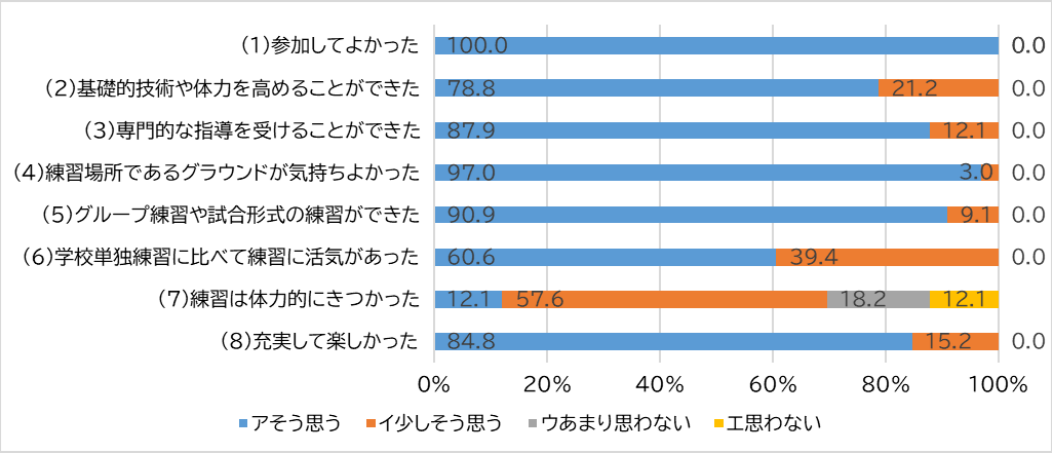
スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

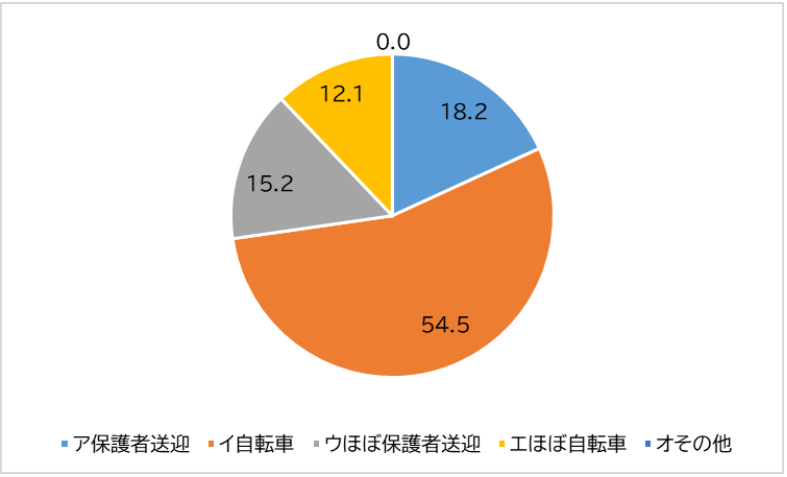
●実証事業後アンケート結果

期間：2024.12.21～1.7
対象：実証事業参加生徒33名（回収率100%）

Q.活動全体について



Q.練習場所までの交通手段（%）



アンケートより

・『参加してよかった』100%
・8割強の生徒は練習場所まで自転車で移動することがあり、移動手段については今後検討が必要。
・93.9%の生徒が次年度も参加したいと回答

●参加者の声

中学１，２年生

・自分の考えと視点が広がった。
・技術が上達したと思うし他の学校とも仲が深まった。
・たくさん練習できた。
・ドリブルをもっとがんばりたい。技術を高めたい。戦術を学びたい。
・前にできなかったことが出来るようになった。
・とても楽しかった。

学校関係者

・技術面での指導は大変助かる。
・生徒は練習に行きたがっている。
・手厚く指導していただき、雰囲気もよい。
・指導者数の面でも、持続可能な運営である。
・ゲーム形式の練習では、スタッフを入れて３チーム編成でき、タイムロスなく休憩・給水ができる。また、技能・能力面で均等なチーム編成ができる。
・Ｕ12チームとのゲームは、中学１年生のモチベーションアップにつながった。

実施主体の指導スタッフ

・先生たち（兼職・兼業）が、こちらの指導に合わせてくれてよかった。
・地域クラブ活動充実のための推進員配置は、非常に助かった。次年度もぜひお願いしたい。
・ジュニア出身ではない生徒も質問をしてくれる。

2.実証内容と成果⑧

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【ふだんできないゲーム形式の練習で充実感を味わう】



【各グループごとに指導者が入って練習】



【夏は必須、熱中症計】

2.実証内容と成果⑨

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年度

令和4年12月 スポーツ団体関係者等へのアンケート実施

協議会設置（年２回）

推進計画の策定、地域クラブ認定要綱策定

ニーズ把握 受け皿団体や指導者の選定

令和６年度

学校現場との調整、対象部活動担当顧問会

実施主体との打ち合わせ

登録申請認定

●スポーツ団体が、実施主体となるのは難しいとする理由（R4.12月生涯学習課調べ）
・学校部活動との連携の難しさ、責任の所在

●経過
・持続可能性、安全性を考慮した上での実施主体決定

●丁寧な打ち合わせ
・合意に至っても存在するそれぞれの立場の不安解消

●合意形成
・認定要綱（前述）により認定

令和６年度

保護者説明会

地域クラブ活動（実証事業）開始

地域クラブ活動（実証事業）事後アンケート実施

保護者会（実証事業の報告・次年度について意思確認）

令和７年度予定

地域クラブ活動の拡大

●説明ポイント
・学校部活動の現状、市の地域移行の考え方、実証事業の説明、学校管理下と管理外の違い、自由参加、保険加入

●工夫した点
・『地域クラブ活動充実のための推進員』は指導者としても登録、クラブと学校の一体感を醸成。市教委事務局も可能な限り実施状況を見守り

●結果(生徒33名)
・参加してよかった100%
・令和7年度は1チームとして土日のクラブ練習に参加したい93.9%

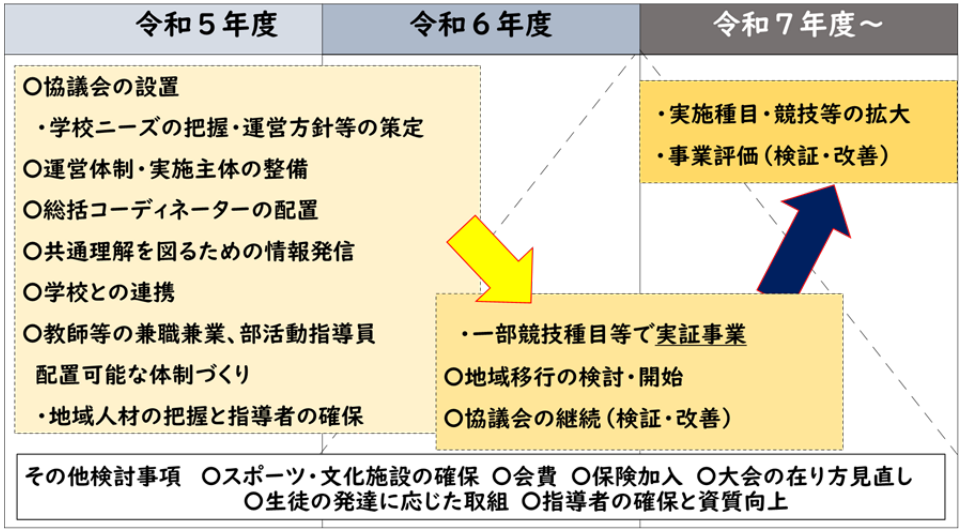
●実施にあたって生じた課題とその解決に向けての方策
・（課題）部活動に参加している気持ちの生徒と、地域クラブ活動として行動する生徒との意識のずれ ⇒ 年間を通した活動の継続的実施による、生徒の「地域クラブ参加の意識」の明確化、生徒参加の地域クラブのルールづくり 等
・（課題）平日の部活動の移行が困難 ⇒ 運営団体の設立、既存のスポーツ団体やスポーツ少年団を母体としない新たな地域クラブのパターンの模索 等

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

●全体スケジュール



年　度	内　　容
令和5年度 準備期間	1　坂出市中学校部活動改革推進協議会の設置（２回） 2　坂出市部活動改革推進計画の策定 3　学校ニーズ調査及び関係団体との連絡・調整 4　学校・関係団体と意見交換。合意があれば、実証期間である令和6年度から「実証事業」として試行を検討
令和6～7年度 実証期間	1　坂出市部活動改革推進協議会の開催（２回予定） 2　学校ごとに実情が異なるため、合意形成された競技・部活動ごとに、新たな実施団体を決定し、実証事業を実施。 3　実証期間中に、次の内容について検討を行う。 (1)「坂出市部活動改革における新たな地域クラブ活動実証事業ガイドライン」の策定 (2) 公的支援の在り方：補助金等の執行
令和8年度～ 本格実施	実証事業を活用しつつ、本格移行開始(目標) ※　合意形成や条件整備等に時間を要する場合は、可能な限り早期の実現をめざして検討を継続する。